家忠日記

六

リ5
749
6

伊り
門 號 749
巻 6

家忠日記第六

文學博士坪井九馬三
日下寛 校訂

天正廿年壬辰正月大　小年卅八才

一 壬戌日 はしめ而出仕候て明二日ニ出仕候由候

二 癸亥日 城へ出仕候家中御礼ありきまて又うつひ初出候名越へ主殿助うへきぬぬききる袖ぬきあふきおけ候

三 甲子日 殿様寧おね福松さまをしく五日ニ御腐聖御出候りんとて早く帰候うつつハに為候

家忠日記第六

四日乙丑 さしへ帰候、方数寄礼ニ越候

五日丙寅 殿様御鷹野ニ御越候とて 女房衆諏訪くるまへかり候

六日丁卯

七日戊辰

八日己巳 殿様此方御成候儀お(?)心(?)中(?)候

九日庚午 御鷹師衆計(?)村地へ御越(?)候由(?)候

十日辛未 鷹師衆新ハ越(?)若(?)へ越候、晩より夜迄雨降

十一日壬申 伊勢へさし(?)源九郎越候

十二日癸酉 晩より雨降夜雪成

十三日甲戌 雪降 例年之連歌候
うつしても来てさかん宿の松 玄佐
さまへハ花のさかりかふ(?)庭 家忠

十四日乙亥

十五日丙子 雪降 江戸へこうハ進(?)城候

十六日丁丑 江戸へ城付候

十七日戊寅 城へ出仕候、治(?)部大炊助所ニふる舞候

十八日己卯 松平玄蕃与(?)越候、水野清六所ニふる舞候

十九日庚辰 晩より雨降

廿日辛巳 御城例年之連歌にて出候、連歌過候て寧(?)和(?)根(?)ニ

もやし候
発句
千代のこゑ木々の君まつの春　如雪

廿一日壬午
廿二日癸未　深尾清十所へふる舞候
廿三日甲申　夜雨降
廿四日乙酉
廿五日丙戌　知行五千石下総小法川ニ而所まて渡候
廿六日丁亥
廿七日戊子

廿八日己丑　龍花院ニふる舞にて城候晩ニ十三郎所ニふる舞まて城候
廿九日庚寅　水野藤次所へふる舞まて越候
晦日辛卯　江戸大炊助所へふる舞にて城候
二月小
一日壬辰　下総知行ニをしより路程を城候下総知行へも原田内記をこし候
二日癸巳　家康様より入ニ御川ニ陣出る候陣送りニひやし候知行引五千石の事ニ酒井平右衛門小田原ニ城候

三日甲午 雨降 をしへ日かけニ陣候

四日乙未 岳下へ参候

五日丙申

六日丁酉

七日戊戌 雨降

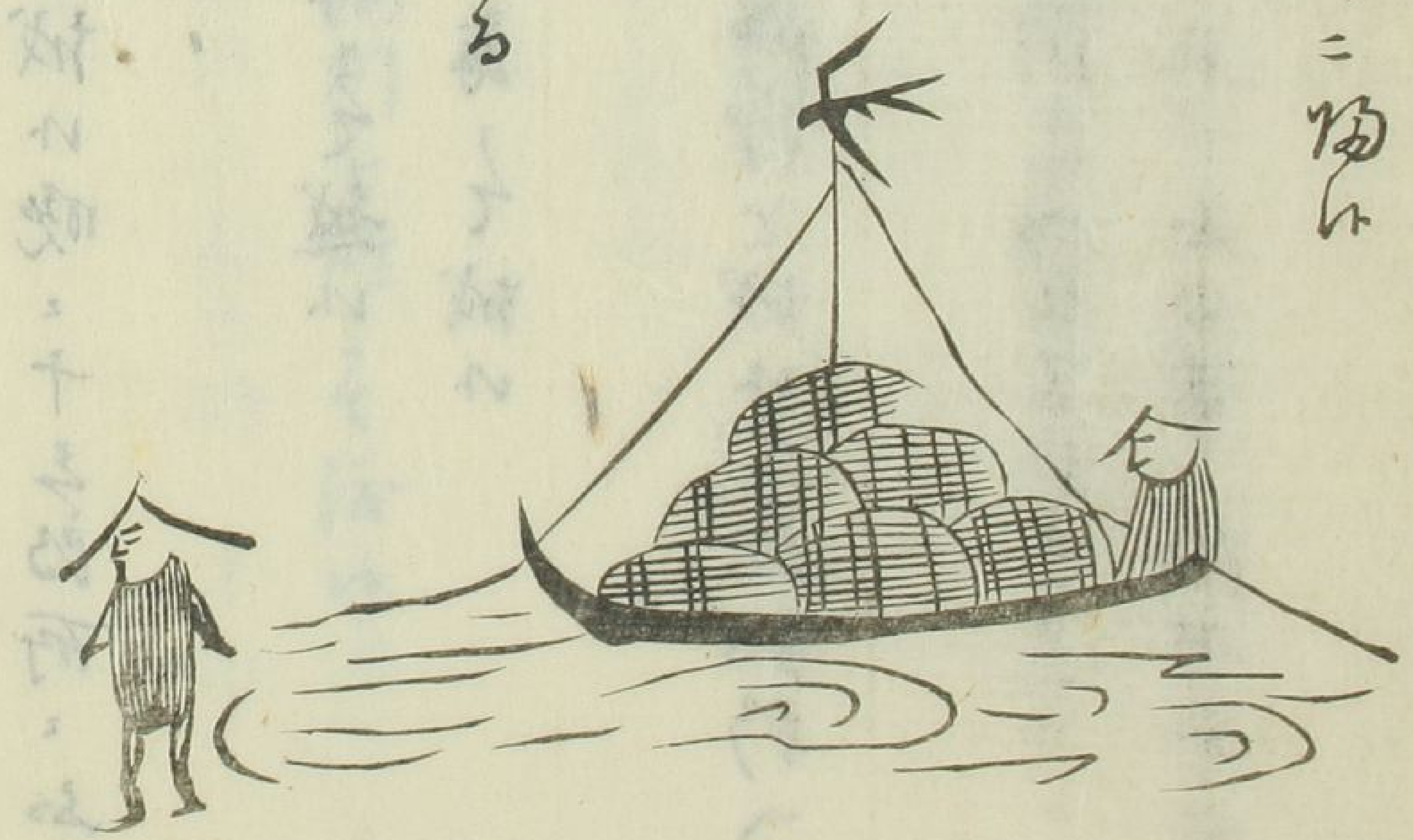
八日己亥 知行より喜之物候

九日庚子 うちくるやいとをする

十日辛丑 岳下へ返し

十一日壬寅 ひりんニ入

十二日癸卯



十三日癸卯

十四日乙巳 江戸より小笠原之丸越城候

十五日丙午

十六日丁未 小笠原之丸ふる舞候

十七日戊申 富長之右衛門ヶ所にふる舞候 粧牧之九所へ二
しけるかくきられ候

十八日己酉

十九日庚戌 忍之城わたして新河より舟まておい候 富長之右
衛門ニ刀出候 名倉喜八へ長刀出候 晩より雨降

廿日辛亥 矢たき迄城候 夜雨降

廿一日壬子 ゟかいと近城候

廿二日癸丑 上代迄ゟさい候小海川まて吉田作右郎ふる舞ニ
てるヲ乙れ候佐右ニ刀ヲ出候

廿三日甲寅

廿四日乙卯 朝より雨降 鐘小吉舟方ヲきり候小見川より

廿五日丙辰 雨降

廿六日丁巳 雨降

廿七日戊午 雨降伊勢守殿孫九郎城候小見川宿おいて着城候
石あしけの為ヲ乙れ候

廿八日己未 雨降

廿九日庚申 雨降

三月大

一日辛酉

二日壬戌

三日癸亥 いせの守殿陽候あしけの為ヲとゝせ候晩より
雨降

四日甲子 雨降 江戸へつゟハしは上の陽候知行踏り三
千石ハ此元あく渡候りん中来候

五日乙丑 つきやハそ候晩より取ゟけ雨降
ゟつさ知行ニ

一こしあその内
三百卅石五斗三升三合

一ちうゑの内
六百卅三石六斗九升一合

一宮田内東金近辺
百廿七石五斗九升二合

一平川之内
百八拾八石七合

一うきもち
卅五石四斗一升二合

一佛崎之内
百七拾五石七斗八升七合

一小塚之内
百六十八石三斗三升弐合

一きいぶこうや
弐百卅八石三斗壱升三合

一吉田之内
九拾五石四斗四升

一戸田之内
弐百六拾石七斗六升

一吉倉之内
百廿四石四斗五升九合

一と谷之内
四百五拾三石九升五合

一さけあらしこ之内
卅七石五斗三升七合

一ちんや之内
千弐百七拾弐石壱斗三升八合

一丹尾之内
八拾五石八斗九升

以上拾五ヶ所

六日丙寅

七日丁卯

八日戊辰

九日己巳　夜雨降　江戸より内記右衛門八内ハ知行わり候
五千石上総まて　四千石余上代近所まて八百石
余合五千石渡候

十日庚午

十一日辛未　小見川より吉田佐太郎為見舞城ニ大豆十表も
こせ候

十二日壬申　茶あふり候

十三日癸酉　上総知行へ人をつかハし候

十四日甲戌

十五日乙亥　雨降　祈祷連歌候

発句

みとりそふ松の木かけや山桜　　玄佐

十六日丙子　江戸普請奉行天野清兵山本帯刀所より来廿日
江戸普請ニ可参候由申来候

十七日丁丑　夜雨降

十八日戊寅　雨降　江戸へ人をつかハし候普請小屋分奉と
吟ニ

十九日己卯

廿日庚辰　江戸普請ニ佐倉迄越候霧岡宗左衛門ヵ所ニ留

候落付振舞候増代万之女房永楽二十文出候

廿一日辛巳　雨降　江戸へ参着候仮屋所佐久間所へ居候

廿二日壬午　宰相殿へ出仕申候

廿三日癸未　城ニ而振舞候我等小屋炭普請させ候

廿四日甲申　酒井宮内大輔天野清兵衛所ニこし候

廿五日乙酉　雨降　治部大炊助所へふる舞ニて城候

廿六日丙戌　夜あさくさ筋ニ火事出来候

廿七日丁亥　本田佐渡所ニふる舞候精進ニて不参候志ふ川

廿八日戊子　いゑこへしつかハし候

廿九日己丑 御普請御隠居御城堀当候

晦日庚寅

四月小

一日辛卯 夜雨降

二日壬辰 御二方様より普請場へ御とうらい給候

三日癸巳 上総知行分にて方野府へ渡候

四日甲午 雨降 屋敷家にて候

五日乙未 雨降 宰相様内府之御振舞被成候

六日丙申

七日丁酉 殿様京都ヲ御くしへ去十七日ニ御出馬之由候 伊達南部景勝さしけ御手につきれ候由候

八日戊戌 朝より雨降原田佐右衛門所へ屋敷之達所にて城候

九日己亥 大雨北風

十日庚子 雨降

十一日辛丑 雨降

十二日壬寅 朝雨降御二方様に今度かく入御陣御行合之達ありて城候

十三日癸卯 夜より雨降

十四日甲辰 雨降かさのいりふる舞候

十五日乙巳 雨降
十六日丙午 平岩主計所ニふる舞ニて被成候夕めし酒宮内所
ニ候
十七日丁未
十八日戊申 治部大炊助伯父民部所ニ連歌ニて被成候正月の
連哥延て
発句
花くの中まつ梅のさかえ哉　永尤
上代より玄佐煩候由申来候
十九日己酉 雨降

廿日庚戌
廿一日辛亥
廿二日壬子 戸田左門所ニふる舞ニて被成候
廿三日癸丑
廿四日甲寅 晩より雨降
廿五日乙卯 新二郎煩訪内候玄佐煩もよくも候ハて九七内
候 夜雨降
廿六日丙辰 龍花院ニ夕めしのふる舞候
廿七日丁巳
廿八日戊午

廿九日己未 水野茂次所ニ而舞ニて城候

五月小

一日庚申 雨降 諏訪部大炊助所ニ連歌ニて城候

二日辛酉 雨降 新二郎煩以外之由申来候

三日壬戌 普請出来候但奉行衆天字有り次第普請場ゟけ立こし候へ之由申候三浦右衛門八諸し候て晩候舟橋近所ニて新二郎昨日二日ニ死て候由申来候舟橋ニ留候

四日癸亥 上代迄城候

五日甲子 次右衛門助新二郎とふらいニ候て誂こし候

六日乙丑 雨降

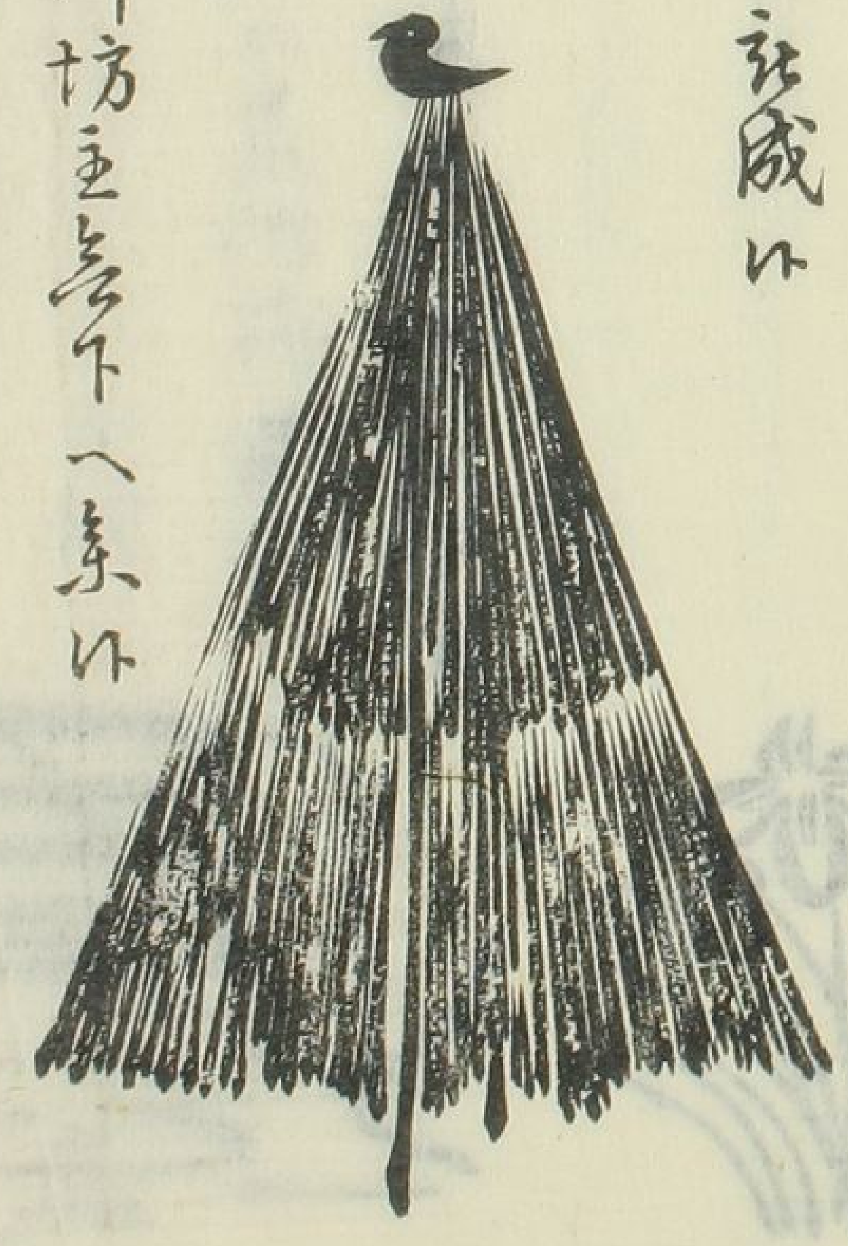
七日丙寅 雨降 玄佐死去ニ成候

八日丁卯

九日戊辰

十日己巳 荻南風雨

十一日庚午 祈祷候当所薬師坊主寺下へ来候留守中ニ作候家ふき候



十二日辛未 雨降

十三日壬申 雨降

十四日癸酉

十五日甲戌 雨降

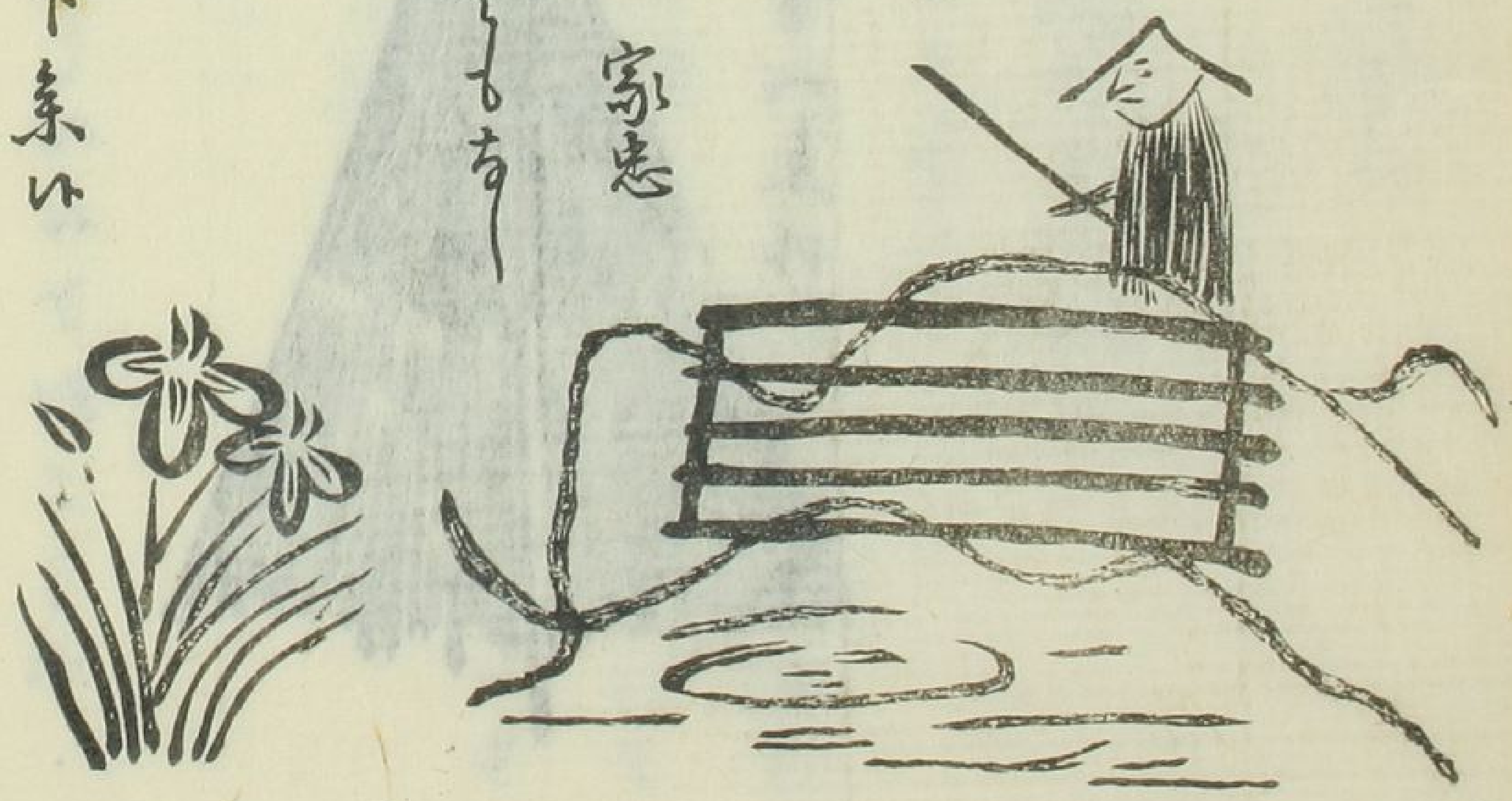
十六日乙亥 雨降

十七日丙子 あさ迄雨降

十八日丁丑 雨降 竹谷連歌夜侍所ニて候

発句

五月雨ハ雲のさかりて雲もなし 家忠



十九日戊寅

廿日己卯

廿一日庚辰 東堂相時儀まて浜松より下来候へハ振舞候上総より音信候

廿二日辛巳 晩ニ夕立神鳴

廿三日壬午

廿四日癸未

廿五日甲申 雨降 竹谷連歌候夜侍所まて

発句

橘ニ香はあらすや梅の雨 正信

廿六日乙酉 江戸酒井右衛門城候

廿七日丙戌 雨降 知行増分候

廿八日丁亥 雨降 酔中候

廿九日戊子
六月大
一日己丑　殿下へ參候、平右衛門江戸より帰候、高麗國終図
城ハ大方納之由候

二日庚寅
三日辛卯　度佛所持寄連歌ニ与五左衛門
發句　家忠
夜の程八ッ之日月の入候
四日壬辰
五日壬巳　雨降、飯沼松平玄記所より鮑海苔來候ニ新二
郎廿五日之夜借あんきニ
六日甲午　雨降、鵜殿八郎三郎煩大事之由申来候、又堀
川より罷之城にて見舞候へ之由候
七日乙未　鵜殿八郎三郎夕死去ニ由申来候、初而ふり八日市
場ニ
八日丙申　八郎三郎とふらいて堀川へこし候、村雨ふる
九日丁酉　雨降
十日戊戌　雨降
十一日己亥　鵜匈降　子共屋作鵜殿八郎三郎なるさうかる
いあふ之枝ぐその袴城ニ

十二日庚子 急下へ参候雨降さん里やい火候ニ付八郎三諸職
之儀ニ内記江戸へつかハし候
十三日辛丑 雨降土用ニ入りつさ知行より年貢こし候
十四日壬寅 初さゝけ除理孫左衛門
十五日癸卯 夜俳まて持寄連歌候十郎左衛門
発句
山遠く見てさへ涼し瀧津波
家忠
十六日甲辰 急下へ参候 竹谷松平玄蕃頭死去之由候
神尾刑部叔平所よりこし候江戸より内記帰候下夜
諸職之儀

十七日乙巳
十八日丙午 夜俳所まて持寄連歌候半左衛門発句
夕立
家忠
雲ふきちらき秋や川上飛行する
十九日丁未 外屋敷ニ行うへさせ候
廿日戊申 中増矢まき領まて人をかきへこす候をまりこ
うけ候
廿一日己酉 夜俳まて持寄連歌候九七
発句
宅廣

まつ宵の月も明行夜の空

廿二日庚戌　是下へ参ハ下野守八郎三郎宛知行分ハ十三郎煩ハ也中来ハ

廿三日辛亥　十三郎兄弟ニ六左衛門こしハ下宛知行分をこハて帰ハ

廿四日壬子　被仰十三郎兄弟ニこしハ

廿五日癸丑　当社まて参詣ハ神領田地ニ社付ハ

発句

神のうへし清く涼しき庭の松　正佐

夕かけ風もなひくまつゆふ　家忠

廿六日甲寅

廿七日乙卯

廿八日丙辰　雨降ハ

廿九日丁巳　十三郎煩能ハ也六左衛門帰ハ江戸より来月五日普請ましめ候由城ハへ之由文とゝく

晦日戊午　家中女房衆振舞ハ

七月小

一日己未　雨降　知行分ハ

二日庚申　朝雨降

三日辛酉

四日壬戌 江戸普請にうちもの迄こし候うちもの隠居まて振
五日癸亥 舞候うちもの城へ出候
六日甲子 江城普請ちとのひて帰候
七日乙丑
八日丙寅
九日丁卯
十日戊辰 江戸普請に城候へミ里中来候 夜雨降
十一日己巳 江戸普請に佐倉いつもの宿迄こし候紙二束永
楽之十疋出候丈丸かい候

十二日庚午 舟橋より舟にて江戸へ着候我々屋敷に居候
十三日辛未 晩に諏訪部大炊助所にふる舞候
十四日壬申 普請きしめ候つきとい十四日あかり候
十五日癸酉 城宰お根へ出仕候隣沢ふる舞候
十六日甲戌 普請所組候て人数出し帰候
十七日乙亥 小雨降 水清六所にふる舞候
十八日丙子 松平与次郎所へ城候三宅源次兵嶋田次兵衛所
へ城候橋着まて
十九日丁丑 右膝つハをしく足うる具足きそのひにこし候
廿日戊寅 隣沢ふる舞候

廿一日己卯　雨降　龍花院ゟふる舞候旅泊と云僧同道して
連歌候
夕霧や月さへやとる萩の花　　家忠
廿二日庚辰　雨降
廿三日辛巳　雨降
廿四日壬午　松平外記隣府ふる舞候
廿五日癸未　水野藤次所へふる舞にて越候
廿六日甲申　三宅弥次兵衛ふる舞にて越候
廿七日乙酉　水平右衛門松与次郎越候深溝理垣谷より越候
廿八日丙戌　三宅弥兵衛所へふる舞にて越候

廿九日丁亥　くろ馬うり候金壱両代物五百文宛ね相より借ふ
る舞の借ふせ候煩まて出候ハんと候おくより出
候
八月大
一日戊子　井野次郎左衛門野浜苦お越しうつ不廿ふし苦
お
二日己丑　大南風夜入雨降　右衛門ハ上代へ返し候　高
野聖祢りうろんうさ衣一端あや物一ふんおひ
うけ金壱両　本田伊淡所よりうつらから越候
銀計両まてうい候

三日庚寅 雨降 鳥居久兵衛ぶる舞候 樽肴持参候

四日辛卯

五日壬辰 松大炊助所ニ而さいゐ登城ニ而 和漢候 晩ニ伊奈熊蔵 吉田佐太郎 板倉四郎右衛門ふる舞候 上代より俵千六十表毎年て城候

六日癸巳 馬ニくろいの候 龍花院米壱石壱俵こし候 水茂所ニふる舞候

七日甲午 松平伊豆登城候 平岩主計所よりふる舞ニ申来候 煩ニて城ふ申候 本佐青山茂右衛門 内藤修理所へ参候

八日乙未 普請大方出来候而人数少遣て御候 忠孝所沢より申来候

九日丙申 雨降 佐倉迄帰候

十日丁酉 上代迄城候

十一日戊戌

十二日己亥 雨降

十三日庚子 雨降 釜下へ参候 西尾主ニふる舞候

十四日辛丑

十五日壬寅 江戸板倉四右衛門所より前関白様御母様大政所御死去候て関白様御くしまり御帰城成候事

十六日癸卯 御根ぬ上洛候ニ付御城候へ之中〻来候
雨降 江戸へ油井迄こし候上代ニ而屋作らせ
候
十七日甲辰 雨降 江戸城候
十八日乙巳 各國流ぬ出仕あくい百姓国之中来上代物候付
倉迄こし候
十九日丙午 御雨 上代へ参候江戸兵粮舟小見川ゟ時ゟ出
し候由候
廿日丁未 雨降 参下へ参候 ひとんニ入
廿一日戊申 夜ニ参無事到着候江戸本町大窪十兵衛小見川

へこし候て音信酒井平平右衛門こし候
廿二日乙酉 十兵へ助崎へ参候平右衛門助崎迄誠候参下
へ参候江戸普請出来て詫〻御届候人数返し候
廿三日庚戌 口〻吉田傳右郎去年未進ニ役を申し
廿四日辛亥
廿五日壬子 同新平所ニ月次連歌候
発
花の時も先咲枝や初桜
家忠
廿六日癸丑 参下へ参候村両口〻未進方之儀を小見川へ派
理右衛門ハつかハし候

廿七日甲寅 く了屋同小座発作候　大南風大雨ふる

廿八日乙卯 お國煩候又小見川へ知行方之儀を修理右衛門ハこし候大方すみ候堀川より江戸へと云女房ら縫

廿九日丙辰 雨降

晦日丁巳 雨降

九月小

一日戊午 雨降

二日己未 雨降　江戸へ兵粮舟小見川ゟこし候

三日庚申 巳午之間大かへゆる又ミ岌ゆる舟作候

四日辛酉 江戸普請ニて又人数つかハし候

五日壬戌 巳時分へゆる　雨降

六日癸亥

七日甲子 伊東無殿下総田北尼ニ小見川へこし候同与五左衛門候

八日乙丑 去下へ参候　村雨

九日丙寅 雨降　夜傳所まて宗入月次連歌候

發句　　家忠

折節も根さへ色めや秋の菊

かい流る神角之所所より役ニ音信ニ水鳥十ワ

柿一枚
十日丁卯 雨降
十一日戊辰 家光ゟこふる舞候
十二日己巳 雨降 桜井ゟ初鮭
十三日庚午 雨降 お京かこりふるいひき候
十四日辛未 雨降 普請所作つき候 お京かこりのくさんこ
南社へ発句こめ候
十五日壬申 岳下へ集候
十六日癸酉 ゐくさの中やうりて江戸より来り候ゟ続く由
候

十七日甲戌 雨降 ゐくさへ内記右衛門八郎
十八日乙亥 雨降 江戸ちえん普請出来候て人数城候帰田
久助所へ月次之連歌候
発句
山くのすゝき深出花時鳥 家忠
十九日丙子 ゐくさ之儀大方すミ候て城候
廿日丁丑 宮本のまわり過当所之町かそ候
廿一日戊寅 朝雨降 東堂晴て浜松上下へ
廿二日己卯 同孫十郎所之月次連歌候
発句
家忠

松はさんけり染いく秋萬紅葉

廿三日庚辰

廿四日辛巳　小石川傳右衛門所ニ誠ハ桜井より触ニ参誠ハ

廿五日壬午　お糸おこりのおちハ連歌ハ今日當社ニこめハ

發句

露落て気まさりけり秋の草

廿六日癸未　雨降　ていぬはちりもん

廿七日甲申　忠下京愛宕時まて誠ハ江湖信同心ハいつ

ハ神角助礼ニ誠ハ

廿八日乙酉　卯ハ下ニ来ヲ方吉田右右衛門催促同日同九七大原

廿九日丙戌　修理江戸へ誠ハ

九月尽ニ連歌ハ　晩雨降

發句　正信

、咲残る菊や神代も秋の景

十月大

一日丁亥

二日戊子

三日己丑　昨日四日ニ寄ル根京都より罷下りそこに誠ハ

へ由江戸板倉四右衛門所より申来ハ

四日庚寅　江戸へさくらいつもの也とまこしハ

五日辛卯 江戸へ被成候、舟橋より舟にのり候、宰相様御供候六
日ころぬ川より被成候由
六日壬辰 御逗留にておねいまで越し候、御国かゝり帰候、宰相様
今度中納言に御成候
七日癸巳 城へ出仕候、多聞院下御方今度から入御とも
虎病ひいふしにて御城にて大閤様より江
雪云小田原に相そく御役此方なる井兵部少輔様
原式部大輔両人御つかいまて金子千両之給
枚いたし居城あり其上洛仕候へとも申候少も
難渋申候を宰相様御人数をも御成敗候なり也

候、城金子枚大閤様へあけ候、百枚は宰相様へ
参候、三十枚は兵部少輔・式部少輔参候、三枚は江雪と
り候
八日甲午 鳥居久兵衛所にふるまいにて被仰候、名小屋へ
明後日十日に松田尾張脚に被成候
九日乙未 さかミ近所帰候
十日丙申 夜雨降、上代へ帰候
十一日丁酉
十二日戊戌 会下へ参候、江戸治部あつまり候、年一ツかいり候
十三日己亥

十四日庚子　おゆき西組深正所へ為吉信役をこし候處師をさ候

十五日辛丑　江戸より十三郎こし候　貴下へ参りていのおひろけ候

十六日壬寅　貴下へ参候法門候

十七日癸卯　貴下へ参候法門よ借て参れ候

十八日甲辰　貴下へ参候法門を借て参れ候

十九日乙巳　修理所月次連歌候

発句

岩根木の中よりもみの松の春　家忠

廿日丙午　雨降　信ふし名古屋へ酒井助左衛門来吉日八日之年頭の御礼ニつかハし候ハんと申付

廿一日丁未　御下法門咄ニ越候

廿二日戊申　雨降

廿三日己酉　貴下へ法門咄ニ参候

廿四日庚戌　雨降　かいつか神角助所より来廿八日一折連歌興行候ハん由申来候

廿五日辛亥　雨降　月次連歌候　おゆき西組深正所へ吉信ニ平右衛門つかハし候　飯沼松平外記所よりさかなこされ候

発句　正徳

風の根なしへさてくちる葉哉

角介所にて発句つかはし候　家忠

霜の色も為紅の木の葉哉

廿六日壬子　時曇

廿七日癸丑　時雨

廿八日甲寅　雨降　貝塚神角助所へ連歌まて越候ゐるさら

かうらい丸様遊と云先方ある後越候て連哥

ニ合候ふかま松平伊豆殿こし候

廿九日乙卯　角助所ニ役を昨日之礼ニ越候此方より酒井

平右衛門つかはし候法母へ様一かんつかはし候

晦日丙辰　酒部大炊助江戸より越候　晩雨降

十一月大

一日丁巳　寺下ニ法門候

二日戊午　雨降　酒大江湖僧宿念様候江戸へ元助こし

候

三日己未　雨降　酒大膳走野候

発句　正徳

霜をや霜雪も流れて落葉哉

四日庚申 御大名下ニ御ふる舞ありふきや町へ参りすこし
候 晩同孫十郎所ニふる舞候

五日辛酉 御同御大十郎左衛門所ニふる舞候名下法門候

六日壬戌 晩御大同九七郎所ニふる舞候

七日癸亥 御大坂助ら帰候りし生へら被候筑紫殿様ニ年
頭の御礼として酒井助右衛門つかいし候進上物
御小袖一重加賀殿へ銀子一枚添尾清十へ同三
両松平源三郎へ同断両金ゟ源へ断両三嶋九吉
一両穀原右六へ壱両京都ゟ而て御小袖遣して候
雪吹ちる右ゟ山きぬ一疋つかいし候

八日甲子

九日乙丑 朝より御近雨降名下へ来候かふりき町出候
ちゝかりけの為かいひも三五斗表部る表之

十日丙寅 ちい塚神角助同お嘉殿梅松とも候ら被候て持
寄て連歌友待所まて候 一雨降まて進参候

発句　　　梅庭

としの気のすくなり八まても雲の行

十一日丁卯 御近雨降 御食時るかいつか疵振舞候てら細
候

十二日戊辰

十三日己巳
十四日庚午 唐の志ろくき城そのしけさせは
十五日辛未
十六日壬申 とのうく清七郎江戸へ城は稲吉小十郎施行へ
まてまいらるうちは
十七日癸酉 あられふる唐丈鐵当は一万下て五百重子ふる
さる方お猿方へふる代る廷
十八日甲戌 小見川吉田佐吉郎城は而京下こ清つは江崎馬
場のましうけさせは
十九日乙亥 月較京て狸汁ふる舞は

廿日丙子 京下江湖僧京ふる舞は玄秀
廿一日丁丑 むま子まうけは当業師坊々山のいまうん新銭
は
廿二日戊寅
廿三日己卯 のしつけ出来は清七江戸より帰は又伝くしか
鉄放あしらる壱万貫て三人当は飛脚番方八一
月ハ三度ツゝ来ては今延て一月て二度成は
廿四日庚辰 てひる近来方こと延は

廿五日辛巳 夜雨降 隼ニ生鷹とりかハし候 其下へ来候 飯沼
松平助左衛門参被成候

廿六日壬午 隼つかいニ出候

廿七日癸未 右衛門八江戸へ被遣し 夫銭之儀正月払いニ成候

廿八日甲申 喜し入助一郎被成候 其下へ来候 酒井善五左衛門

廿九日乙酉 門所ニ而振舞候

晦日丙戌 堀川勝俊八郎五郎宗十参被成候
江戸中納言様ゟけんきやう参被成候

十二月大

一日丁亥 けんきやう参候而近板抱一つんいうし候あ
つ犬狐一疋一くいゝ候 又のしつけ候 出来候 其
下へ来候 定座へ来候

二日戊子 江戸本田佐渡守山菊右衛門内藤伝三郎所ゟ大
閣植治舟板之儀けけ候へ之出中来候 日限ハ大雪
十兵衛所ゟ寄中来之出候

三日己丑 夜雨 翌連歌四十四句候
山〻を作出来やら称の雪　家忠

四日庚寅 多湖保科保正見舞ニ被成候 其下へ定座へ来候

五日辛卯 小りん二入 同半左衛門所ニ振舞ニ被成候
城候

六日壬辰 小りんニ入 大あみ成候て当地まて引候ニ付候ハて不成候 江戸大窪十兵衛所より来九日ニかつさ小田原ニて舟木出候間其ニ普請ニ成候へと申来候 爰下へ来候 りんニ入年こりひさ

七日癸巳 本請衆ニ先へ人を成候 ちより成候

八日甲午 待前ふる孫候

九日乙未 かつさ舟板普請之人数成候 中間七人かけ落候

十日丙申 年寄とらせ候 爰下へ来候

十一日丁酉

十二日戊戌 小田原舟板普請延候て人数帰候

十三日己亥 右衛門八江戸より帰候 壱万石ニ金子壱枚五両出候 是ハ法くらく来正月九日人数出陣候 其国意金之右法くらへ成候衆 酒井宮内大輔 本多伊与守 小笠原信濃守 同名掃部大輔 松平周防守 大窪治部少輔 牧野半右衛門 諏訪安藝守也

十四日庚子 とりより友助勘一郎帰候

十五日辛丑 爰下へ来候

十六日壬寅 雨降 愛宕山伏ら成候

十七日癸卯 雨降

十八日甲辰　彦坂八幡川へ合候而八郎三郎番代ニ来正月二日ニ名古屋へ可越候由にて越候

十九日乙巳　岡田孫左衛門所ニふる舞候

廿日丙午　雨降

廿一日丁未　お茶ひきよせ候　大かんニ入　同名左衛門同次候

発句　　てい主好覚

鳥そ啼ねくらハいつも雪の竹

廿二日戊申　をいとかりて出候　雑子二ツ　晩よりあらい候　江戸より浜くしへ壱万石ニ夫丸十一人あるりハ

廿三日己酉　多

廿四日庚戌

廿五日辛亥

発句

芦垣のまちかき春や宿の梅

廿六日壬子　江戸越年ニ先ニ夫丸出し候　又右衛門親子三人いとまこい候　同松平玄蕃大澄理子おつる所へこし候

廿七日癸丑　高下へ寄候　江湖こもき僧侶宮にて出候

廿八日甲寅 江戸越年ニつき知行埴谷迄こし候
廿九日乙卯 舟橋迄こし候
晦日丙辰 落付備部大炊助所ニふる舞候 江戸へ越候 此条
留ニ城へ出候 ひしくい二ツ本田佐渡守へ遣ス
十八龍花院へ米遣ス

文禄二年ニ成候
天正廿一年癸巳正月小

一日丁巳 御大所ニふる舞候 はしめ而出仕候て二日出候
へ参申候 松平与次郎ら銭候てとゞけ候

二日戊午 様へ出仕候 ゑかしすゝりさのま同うさひろめ
とて出候 うゝきぬぬき候 糟屋茂八郎三郎
御職之儀ニ付てくしへ下候
三日己未 江戸知音衆礼ニあつまり候 中納言様御ふる野法
出かさいくてあい候
四日庚申 同礼ニ同日迄あつまり候て舟橋迄帰候 はくしく
のたし金一枚四条所ニてふるせ候
五日辛酉 うちへ帰候子共ちしかやこちやすく候
六日壬戌 城下へ礼ニ参候 立春 夜雨降
七日癸亥 雪ふれ雨降 月次かうゝ菜今宵左門與行

候
　若菜発句
若菜摘む野はあすもこんと思ひけり　　家忠
八日甲子 午刻ニ地震候
九日乙丑 同十郎左衛門所ニてふる舞候
十日丙寅 つゝい塚神角助礼ニ越候
十一日丁卯 雨降 夜雪 当名薬師坊祈祷候
十二日戊辰 岳下へ参候 申刻地震
十三日己巳 例年之連歌候 松平名久兵衛九郎次郎おつる名
　かへる

　発句正佐
松は小松生行末や千世の春
鶯巣くう庭のこ松哉　　家忠
十四日庚午 夜雨降
十五日辛未 岳下へ参候 ほくし吏丸見廻ニ原田内記江戸
　へこし候
十六日壬申 独吟連歌出来候
　発句
鶯や来香のかの窓の梅　　家忠
十七日癸酉 伊勢村山をしこし江戸より来廿日ニ普請越候

十八日甲戌 へ見舞ニこし候、殿下之ふる舞候、晩ニ新九郎ふる舞候、飯沼在
平介所より音信候
十九日乙亥 風雨、江戸へ普請衆之主水城へふり己よりも
音信こし候
廿日丙子 かい塚神角助所へ礼ニ城候、来迎るへもより候
うちもりにやい出候
廿一日丁丑 雨降、京下東堂時儀まて出候、殿下へ参候
廿二日戊寅 両日そん降
廿三日己卯 江戸支丸出候、江戸より普請衆之城へ中申

来候而明後日廿五日ニ可出候と被仰出候、去年去
中大納言様小へ御出陣之刻ふてつき
う衆二人中百二人被出候
廿四日庚辰 江戸へ主丸出し、三州へあしよハり城之番候、板
倉左衛門米津半助女房衆引候て城へ、江戸から
主之儀出候而記候
廿五日辛巳 風雨にて江戸へ普請出候事延候、晩よりあかり
雨こそ申候
廿六日壬午 江戸普請ニ佐倉迄出候、去春筑紫へ出し候鉄炮
衆上下四人被返し候、そとくろみてあい候さく

ら帰ノ宿霧園ハ上方よりめんるくニて炊度中
候所ニ留候

廿七日癸未 江戸へ誠候来明ニ去霜月つまり御音信ニつき
いし候酒井駒吉夫鳴候宿へこし大納言様一随
御機嫌ニ出候御墨下され候又尚再京発句探題
下より誠候

廿八日甲申 年號かわり文禄ニ成候 雨降晩より大雪ニ成
候大納言様御鳴候中風説之

廿九日乙酉 普請初候堀之板倉四郎右衛門所ニ而御能有て
誠候中納言様進上物鶴ニ羽二本

二月大

一日丙戌 本田佐治より串柿ニ誠候

二日丁亥 雨降 讃岐にて御能候

三日戊子 水野後兵所ニ而御能ニて誠候

四日己丑 水野清六所ニ而夏煎連歌候

五日庚寅 普請場へ出候 村雨ふる

六日辛卯 鳥居久兵衛より樽肴音信候

七日壬辰 雨降りふる

八日癸巳 隣家振舞候

九日甲午 治部民部助所ニ連歌候 住例梅のくちえの発句

也　　家忠

和ハみより梅花れいちえ候

浜松より浜ふら舟にて申来候

十日乙未　小栗又一所ニ爰趣にて遠路にて城候

十一日丙申　晩雨降　かつさより出候兵粮舟去七日ニ風ニあふされ候て兵粮七十俵うちこミ候

十二日丁酉　浜へ大舟つミ候くろうさ板あつり候者方石にて五十枚晩にかりや大かたにふる舞にて城候ふてまわし毛利兵部城にて遠路候表ニ入候

家忠

海もこし座まうたこのへ見候

十三日戊戌　晩より雨降　くろうさ板のうちかつへ金左衛門つこし候　菅沼藤部・松平深正・戸田左門ふる舞候

十四日己亥　普請番かハり候城候平岩主計所より紙十束鑓廿本まて音信候

十五日庚子　小栗大蔵・板倉四郎右衛門・戸田源七ふる舞候

林口ニやい出候

十六日辛丑　雨降　駿州存去丸く東堂ふる舞候

十七日壬寅　夜雨降　かつさより兵粮舟城候

十八日癸卯 同日迄雪晩雨
十九日甲辰 昨日こうつさ兵粮雪子三両こうりいこまい右
京方ニ連歌候
発句
さくらいしりも香
家忠
廿日己巳
廿一日丙午 遠山勘左衛門水野清六郎被候同日迄雪晩雨
廿二日丁未 江戸大炊助所ニ連歌候
廿三日戊申 朝迄雨降
廿四日己酉 ひうんニ入 上代東堂ら被候中納言様根(?)京けん

きやし戸田十郎右衛門ふる舞候
廿五日庚戌 江戸大東堂ふる舞お伴候上代より板ふきこし候
廿六日辛亥
廿七日壬子 雨降こうくり板ふき京へ上候
廿八日癸丑 朝戸田左門所へふる舞ニて被候晩西郷孫六所へこし候
廿九日甲寅 朝水野清六所へふる舞ニて被候本佐より給候
晦日乙卯 晩雨降 大納言様御祈祷一日二百韻ニ連歌興行候

第一　以雪
雪と見て春風梅花のかこ木かけ
第二　家忠
かひきその末を根まくる柳かけ

三月小
一日丙辰　上代より去月内ゟ五左衛門馬盗人宿馬とてあらため出候おゝ魚落候中写小七と申者同所宿ゟ二人ミ出候又作ゟ内より一人候是をからめ候
二日丁巳
三日戊午　普請衆出来候てかへり候　佐
四日己未　ひうつへ城候雨降
五日庚申　夜雨降
六日辛酉　雨降
七日壬戌
八日癸亥　岳下へ参候
九日甲子　夜より雨降
十日乙丑　風雨江戸本田佐渡守老母去七日ニ死去候由申来候

(花押)

十一日丙寅　本佐へ弔ニ罷越候
十二日丁卯　多胡保科弾正よりこい三本音信ニ越候
十三日戊辰　飯沼松平家記所へこい二本つかハし候
十四日己巳　江戸へ兵粮出し候手毎
十五日庚午　飯沼松平家記所よりさかな越候　表下へ参候
ふる舞候江戸普請
十六日辛未　夜ニ入むら田先友馬盗人二人見付とらけ候
松平右衛門中野助一郎喧嘩候助一郎右中つき
りて走助一郎をひろけてさつまへ付届こし候
三州石川宰人大勢ニ押て酒屋へこし候て取

江戸へ兵粮毎小石川より出し候
十七日壬申
十八日癸酉　江戸普請所かゝりにてこし候又江戸へ兵粮毎
出し候
十九日甲戌　飯沼松平家記所より酒肴ら越候有難所振舞候
廿日乙亥　晩より雨降
廿一日丙子　雨降　東堂時儀ニてら越候　江戸普請出来候
て人数帰候
廿二日丁丑
廿三日戊寅　麻崎へ参詣小石川より毎まて

廿四日乙卯　小堀迄下向之三浦右京門へハ不参候て返留に
廿五日庚辰　河原観音へ参候ついで梅林角助酒むかい罷出候
上代へかへり候上代よりも酒むかい候お猿に
てかり巻物角助老母より出し候　夜雨神なり
廿六日辛巳　殿下へ参候
廿七日壬午
廿八日癸未　華寿より江戸へ兵粮の勘定に才一郎越候村雨
同九七郎目付連歌候発句ハ先家康時までのこ
発句之　家忠
五月雨しけるの鳴ぬを卯の花聞ゆ

廿九日甲申　雨　上州よりい東堂くらん志て本光寺へ候
越候て参候去康時へ参詣之刻上代府酒むかい
のをこふる候くらん志てたちや　二扇二候
もたせ候
四月大
一日乙酉　家康当時儀不参候中候殿下へ参候
二日丙戌　貝塚神角衆銀倉まてこし不参候
三日丁亥　上代茶仕初候　晩より雨降
四日戊子　ひる迄雨降　濱上の右手石見留守之連歌こ
し候

五日乙丑 雨降 香元町にて候同姓平月次遠野候

発句　　　　　　　　　　　家忠

下水や縁とくる夜木立

六日庚寅 雨降

七日辛卯 雨降 江戸へ半助越候

八日壬辰 正佐多瀬へ新城候 江戸より七一郎清七郎兵

粮とりて城候金子三両被分

九日癸巳 岳下へ参候

十日甲午 香元町ありより高四ッうりて越候 佐倉出府

静岡宗左衛門越候 夜雨降

十一日乙未 雨降

十二日丙申 栗毛ノ馬兵粮八拾俵にてかい候

十三日丁酉 馬四十五表かい候

十四日戊戌 こさ皮二間流され候

十五日己亥 岳下へ参候 鍋々候 益蔵主にて ちやの子ふる舞

候 雨降

十六日庚子 鮮に与三ら越候 親子三人こし候

十七日辛丑 与三兵衛おひさらし鮮候 又殿入殿ら ちそうの神

角助所より鯉ら越候 正佐多瀬より鯉候

十八日壬寅 鮮に飯沼追物候 五十上 むま子にてまゐり出候

十九日癸卯 矢さき金居彦右衛門家中より差出候中宮こ
い城にて返し候

廿日甲辰 江戸より半助帰候米雪子郡代物壱貫五百り
りゆてこし候

廿一日乙巳 宗入月次ありいつろ神角助こし候発助江戸へ越
候

発句

うへもみる心やまもふり〆　正徳

廿二日丙午 鶴初時雨時候上下へ参候

廿三日丁未 大雨降やふけくち迄候

廿四日戊申 新発八郎三郎往之儀依ふてはまゝきとて發八
帰候

廿五日己酉 雨降　同久助月次候

発句

待人の家はとふ時節哉　家忠

廿六日庚戌 右刀のしつけ出候発助江戸よりかへり候
つきはこなし出来候相入雨降　中納言様あ
かりは知れ帳ヶき候

廿七日辛亥 雨降

廿八日壬子 上下へ参候晩雨降

廿九日 癸丑 大雨降、市場なかき引候て女一人うちころされ候

晦日 甲寅 明日朔日一日ニ為発句、同孫十郎大炊助理兵衛四郎
左衛門月次三ツよせ候て興行ニ、〆倉より吉
祥寺松馬より梅遊ハいつゝ、神角助海上右京石
見城候、庭来ふる弥候、新二郎心さし候

五月小

一日 乙卯 三為発句、連歌候、江戸より舟まで小吉物候来、五
日武州まてのやふさある一城候へ、三里中来候
発句第一 家忠

時しるの空や秋の萩時雨
第二 吉祥寺 銘意
夜八月をて稲妻のひかり行
第三 正俊
露分中の花薄ハたゝしるしの所

二日 丙辰 城下へ家候、雨降、武州府中やふさあるのりよ酒
井平右衛門城候、中紀の飛へ五日ニ祝札ニ鮑進
上候

三日 丁巳

四日 戊午 八幡山座頭城へ二し候

五日己亥 今下ヘ参候神角介所より書信参るさるに吉田
佐吉郎所よりさる分参る書信候　礼答ニ出候
八田介所へも餘二城候

六日庚申 吉田佐吉郎所へふろさる分二し候巳刻地震有
る

七日辛酉 粉屋八郎三郎女房孫むすめ不り川より引越候
玄信心さして时儀ニ越候

八日壬戌 雨降　貝塚神角介所へ逹ましてま越候

発句　　家忠

五月雨や水口あふるゝ如黒もあり

九日癸亥 雨降　角介番替ニ参候　去五日ニ武州祭へ
越候ところの内中納言様御意にて参候て
ふろ候雲平右衛門所より昨日中来候

十日甲子 酒井善五左衛門月次連歌候梅遊お参の越候
かい塚神角介こし候

発句　　　　梅於

松かけと身よりとなる夜那か

十一日乙丑 江戸本田佐渡所よりたくし御番事中来候
六月朔日ニ貴沼山城守松平伊豆守組也
薬師東光寺へ行候城皮をくへり候

十二日丙寅　江戸より水野清六同夜河井理右衛門ゟ状
被十三郎も同心被致清六ニ持せ二ッゟ
ゟ参り候被
十三日丁卯　晩ニ孫十郎所ニ参来客ゟ参拝被
十四日戊辰　客人京康崎へ参請被石風呂たて被
十五日己巳　参下へ参被客人京康崎より状被貝塚神角所
所より上参ゟ状被
十六日庚午　雨降　客同十郎左衛門所ニ鍋倉ゟ参拝被夕諸
同ゟ五左衛門ゟ参拝被荒尾飛騨ニ儀ニ松平伊
豆所より申来被

十七日辛未　鍋同久兵衛ゟ参拝江戸へ状被石風呂焼参下
東堂ゟ状被荒尾飛騨殿沼山城松平伊豆守ニ人
ゟし来ニいつして被人つかい遣し申候ゟし来
ニ参ゟ予へ本田才一郎こし被
十八日壬申　参下ニ御儀ゟ参拝て状被
十九日癸酉
廿日甲戌　はやし飛騨ゟし手前元当被て才一郎帰被十三
郎江戸へ帰被おくとのおやくあ江戸へ状
ゟいつゟ神角所こし被
廿一日乙亥　参下東堂御儀ニて状被又下へ参被

廿二日丙子　雨降
廿三日丁丑　大閤様御帰陣にて江戸中納言様近日御上洛之由多胡保科保正殿中来候　最前ふてを
やし榊原式部殿をしへ用事にて越候　江戸普
請之六月廿日越候へ之由承候
廿四日戊寅　江戸板倉四郎右より先度之御馬之儀　御所前
へ礼申候へ之由中米平右衛門越候
廿五日己卯　雨降　ゟいつゟ神角介こし候
廿六日庚辰　雨降　くりけの馬常陸より出候籾百俵
一　一ツ

廿七日辛巳　雨降　内記江戸へ仕くしへ飛脚ニつかハし
候平右衛門帰候
廿八日壬午　雨降　筑紫鍋小吉ニ飛脚をそへ候てこし候
京下へ参候
廿九日癸未　雨降
六月小
一日甲申　發句　家忠
飛かふる萩八野守のともし火
月次連歌候ゟいつゟ角介こし候初而初さうけ
持参候飯沼より松平助左衛門ゟ越候

二日乙酉 助左とうへ(?)を下へ参候
三日丙戌 女房衆宮へ参候大原ちかやうち東堂へ戸下へ
新城(?)にそらりし 内記江戸より筑紫龍勝(?)にて
ゆて帰候
四日丁亥 岡(?)東堂能時ふ々(?)に候飯沼松平外記親父源清死
去候 ... 中来候
五日戊子 三助江戸へつかはし候江戸ニ而こさし(?)
木元(?)候
六日己丑 雨降 馬場作らせ候
七日庚寅 飯沼源清とふらいニ内九七郎越候

八日辛卯 晩むらさめ(?) 霍乱煩候
九日壬辰 同与五左衛門所ニ月待連歌候而いつゝ神角外(?)
越候
発句
涼しさの風の神(?)ひし 宿りかな 家忠
十日癸巳 晩雨降 初茄同十郎左衛門所よりこし候
十一日甲午 三助江戸より帰候 むら雨
十二日乙未
十三日丙申 小見川吉田使吉(?)郎兵衛(?)にて こし候 樽肴おさへ(?)
所扇十本

十四日丁酉 家中女房衆ふる舞候

十五日戊戌 当社まて法楽連歌一ヽ付

発句　　正佐

夕立ハ木の葉を染ぬ時雨哉

原田内記与田同重左衛門ゟうちあん三浦右衛門

八ちやの二酒井善五左衛門同同主米同岩堀を

兵へ同様きこへつけ候　大原修理　酒井平右衛門ゟ
うり二江戸へつかハし候

十六日己亥 善下来候大くわの谷小寺へ去十三日ニぬすミ人

十七日庚子 入候あらためいてたされ候

十八日辛丑 小雨 主米江戸廿日ニ御普請場ニ付立ニこし

候ゆへ之地震

十九日壬寅 ありゝと妹所ニふる舞候

廿日癸卯 ゟいつゝ神角介所よりさしけあもひこし候

廿一日甲辰 善下来堂時儀まて出城候 善下へ来候

廿二日乙巳 江戸普請場請取身まてこし候へ主米来候

廿三日丙午 江戸御普請ニ倉造出候

廿四日丁未 江戸へ来着候城へ出仕候

廿五日戊申 知音之衆音信候

廿六日己酉 本位よりあゆこされ候板四郎右へふる舞にて

こし候
廿七日庚戌 普請場へこし候夕立
廿八日辛亥 御大炊助所へ飯食ニて越候大窪十兵衛彦坂小
廿九日壬子 刑部殿へこしより結餉候
七月大
一日癸丑 水野清六所振舞ニて越候大十兵衛小刑所へこ
し候
二日甲寅 隣家ふる舞ニ岩田弥七より鯉三本こされ候け
んきやうより鮎こされ候

三日乙卯 普請場へ出候本俵波所よりあゆのすしこされ
候
四日丙辰 こさしさたて候御大方様より御肴肴給候
五日丁巳 榊原式部大輔所よりさしの分給候
六日戊午 明日七日之御祝ニて御能見物之城候へこし申
来候
七日己未 丑刻より御城御能ニ出候十九番候夜ニ入候
八日庚申
九日辛酉 甲飛庄兵左衛門所へ達観ニてこし候
発句

色ふかみ野山もちらな秋の霧

十日 壬戌 松平大炊助所にふる舞候 晩に隣衆ふる舞候け
んきやういやこし候 鳥居彦右衛門所より
うるさうかこし候

十一日 癸亥

十二日 甲子 松龍花院にふる舞候 夕食ニ鳥居久兵へこし候 平
岩主計へ鐘城候

十三日 乙丑 夕立 松平民部所にて連歌候 本佐より食籠来候

十四日 丙寅 本田孫八より瓜こされ候

十五日 丁卯 夕立

十六日 戊辰 小笠原掃部殿にて連歌候 普請内かはり候

十七日 己巳 雨降

十八日 庚午 松平大炊助所にて連歌候 阿部善八よりかきひら二ツ
こされ候

発句

手折かよ家ます夕露萩か花

家忠

十九日 辛未 雨降 小栗忠蔵吉田伝右郎ふる舞候

廿日 壬申 雨降 吉田伝右郎所へふる舞まてこし候

廿一日 癸酉 遠山勘右衛門か所へ連歌まてこし候

廿二日 甲戌

廿三日乙亥 小栗忠蔵所ふる舞にて城ニ
廿四日丙子 松大所ニ連歌ニ下野の連歌士塔川棠
新参にて雲やうち崎秋の海
廿五日丁丑
廿六日戊寅 本信よりあゆのすし給候
廿七日己卯 普請出来候て佐倉迄かへり候
廿八日庚辰 雨降 上代近場候
廿九日辛巳 雨降 こうもとの兵粮江戸へ舟まてこしてる
晦日壬午 つさへいこし候

八月小
一日癸未 会下へ参候 田部上代ちかうきんと申付候へ
共百姓共陀ニまて正候
二日甲申 十郎左衛門ら所ニ月次連歌候 正信
発句
那古のひろへ下向候
三日乙酉 午刻ニ地震候
四日丙戌 仁郎さわらひ斗ニて去年ニ成候分百俵納所候
りんゆ候
五日丁亥 ゝつさ上谷百姓とも五左衛門教平と申やう候て

返候
六日戊子 春山、度根ニてときさし候
七日己丑 多胡より小さいしやう度貝吹ニ御ざ候ニ
きれ候
八日庚寅 雨降 上下之时儀ニ振舞候てんちんの天神の
名号くれられ候
九日辛卯 九州名護屋へつかハし候鐘小吉城ハ大納言様
御機嫌候由申来候進上帷子二ツ合ヲ入候と
て一段御祝着候由書下られ候 京都雪吹を右
衛門所より油桶一丁こし候

十日壬辰 多胡之こさいしやう度ら嫁候 上下へ来候
十一日癸巳 酒谷五左衛門所より水菓こし候
十二日甲午 ひるしに出候星一ツ出候よひより出候
十三日乙未 雨降 こしもとの兵粮ニつさん舟まて江戸
へ 吉田佐太郎所より筆五對もとめ遣こし候
友待所ニ連歌候
発句
みちぬ海よりさ遠いろふ秋の月 家忠
十四日丙申 雨降 新座兵庫むすこ坊主めなる鉾候 粮之八
大風大雨ふり

十五日丁酉　過般の大風小田比そんしいたしけれは

十六日戊戌　殿下にも佐倉へ吉祥をめされ候而連れて被

城候紹巴か書之新式目もしめされ候

十七日己亥　持参連歌候

發句　吉祥子繁喜

咲くをあひらも秋の野風哉

十八日庚子　江戸へ酒井権之助こし候　正佐罷若甫京都よ

り兄弟に被仰候ちやせん下緒上ちや持来候

十九日辛丑　同九十郎所に連歌月次

發句　家忠

花見よと猿に然に未聞野

廿日壬寅　吉祥もとし帰候

廿一日癸卯　殿下東金時まてに城候殿下へ参候　お猿豆州

あさへ湯治候正佐宗入内記てうもと辰うり

との行入候

廿二日甲辰

廿三日乙巳　大雨ふる江戸よりまんのふしんそんし候百子

子普請こし候へ之由中普請奉行よりつ申来候

廿四日丙午　雨

廿五日丁未　雨　江戸へ普請衆こし候　お猿去廿三日に之

於川迄城へ出候て為返し被成候　然下へ参候處
亭主ふる舞候　多胡保科弾正殿より使者ニて
一ッさゝ二種（さゝ八ツ　めん子二ツ）ら城へ九州大納言
様御出候ニ付而江戸中納言様火急ニ御上
洛ニ付候て御餞ニ参りたい諸合ニこし候
廿六日戊申　霖雨　江戸へ中納言様御上洛さゝに飛脚二人
候　江戸より権之助参候　大納言様来十五日
ニ迄ら納言様来九月之御礼中納言様へ申ニ
うち上付御返ニ城へ入之由　板倉四郎右衛門
より申来候

廿七日己酉　雨降　ゆいつり来迄之時儀まてら城へ御下へ
参合こし候
廿八日庚戌　雨降
廿九日辛亥　雨降　江戸舞ニ勘右衛門夫御城へ
九月小
一　日壬子　勘右衛門たいしよくもん十番さゝ二番舞候　江戸
本田佐渡守石川左衛門大浦平岩主計板倉四郎
右衛門所より大閤様京都へ御納戸之付而中納
言様来五日ニ御上洛ニ付御子ニ御餞別御用ニ
て城へ之由申来候

二日癸丑　中納言様御上洛御暇請ニ佐倉迄こし候　晩より雨降

三日甲寅　大雨降　江戸へ参着候

四日乙卯　城へ出仕候処御進上候へ共去五日之御手揃ニ罷成候ニ付候御要用ニ付て御返し本田佐渡所へ仁田山きぬ二疋さし出ス山岸右衛門所へ同きぬ弐疋さし出ス内藤八郎右衛門所へ同出人ニ付きぬ返し候　晩ニ大炊助所ニ而御鉢兵庫ニて候

五日丙辰　中納言様御送りニさし出ス近所野迄おい候板倉四郎右衛門所迄ニ申入こし候

六日丁巳　大納言様より御使者ニ而返シ候へ之由ニ候返事候板四郎右へ御鉢ニてこし候本佐よりあ由のすし桶一ツ給候

七日戊午

八日己未　雨降　板四郎右衛門へ参逢之申遣候

九日庚申　同日迄雨降大雨風吹候ふさ候普請奉行衆より京都伏見御普請ニ一万石ニ人足廿四人つゝかゝし候へと申来候

十日辛酉　伏見御普請之儀ニ三浦右衛門八ゟしつへこし候ともん普請も出来候て注来候　本佐板四

郎右より大納言様御帰城御下りなされ候日限無
之候得共先達而御へゝ申来候て市川迄御出候

十一日壬戌 雨降 夕八つ迄御休候

十二日癸亥 雨降

十三日甲子 雨降

十四日乙丑 雨降 松平下総守殿御先

十五日丙寅 急下へ参候而振舞候飯沼松平外記殿江戸へ登城
候てやうやうまで登城候

十六日丁卯 江戸より飛脚到着候大納言様去廿九日に大坂迄
御着之由板四郎右より申来候

返

十七日戊辰

十八日己巳 おさる伊豆ゆより江戸羽田迄帰城候水出候て
道留之由申来候

十九日庚午 おさる御作又江戸披換普請事申来候 強雨

廿日辛未 雨降

廿一日壬申 朝雨降 急下東雲時儀ニて登城候

廿二日癸酉 雨降 急下へ参り

廿三日甲戌 小姓衆涼尾清十之丞殿迄参候

廿四日乙亥 大納言様御迄之使倉迄こし候

廿五日丙子 水出てまいりおそて舟橋より舟まて江戸へ帰

候
廿六日丁丑　本佐へ出候、本佐より鍾一尺こされ候、江戸大野
助水野藤次郎所候
廿七日戊寅
廿八日己卯　隣所ニ而振舞候
廿九日庚辰　鳥居久兵衛所ニ連歌候
發句　家忠
山ハきりも庭の紅葉かな
九月大
一日辛巳　本田佐渡所ニ朝めしまて越候、夜雨降

二日壬午　隣所ニ而振舞候
三日癸未　松平玄蕃父子本田彦治二清水ニ而振舞候、晩水野
平右衛門所ニ夜連歌候
發句　家忠
くもりなき世ハ咲菊やてる津星
四日甲申　荒川二郎九郎所ニ連歌候、ゐさより兵粮舟ニ
し候
五日乙酉　水野孫次郎かけられ候、祝言ニこし多代至
夜雨
六日丙戌　朝雨降、小栗又一所ニ夢想ニ連歌候

七日丁亥 樫田織部所ニ節めしにて城ハ本多平主計石左
衛門大浦ニされハ大納言様御城さうまうそ
ハ為先ニ立所へうかりに候ハ出ハ明日帰ニ
定ハ晩松平与次郎所ニ而夜踊ニこしハ主史へ
吉田左近所ニとまりハ

八日戊子 舟橋造りへりハ

九日己丑 上代造帰ハりハうけの事申にて佐倉宿ニを
きハ

十日庚寅 岳下へ帰ハ南風雨降昨日ニ馬鈴ハ為こしハ在
雨神なる

十一日辛卯 節造雨降

十二日壬辰 京へ飛脚越ハ

十三日癸巳 江戸女房越ハ

十四日甲午 岳下ニ而ふ多房ニて城ハ女房ここしハて帰ハふ
しことゝも芳野藤将氏之番 平岩主計江戸の

十五日乙未 屋敷火事出来ハ由ハ

十六日丙申 东堂時儀にて越ハ七兵江戸へこしハ

十七日丁酉 雨降 夜雨降

十八日戊戌

十九日乙亥 ゟつき上谷佐野善右衛門所より鯉こし候
廿日庚子 雨降 こしまやいとう二ツ
廿一日辛丑 東雲根時儀まて出城候 在下へ行
廿二日壬刁 九月表之進聚候清楽
発句
秋の秋ころ語ハ奴筆や神無
富忠
廿三日癸卯 善甫京への郵便せ候 紹巴へ猶竹之下額発句付
勾つりかし候 紹巴へ銀子一枚こし候 昨日之
廿四日甲辰 九月表進聚宮へ代物二十疋之へ候て城候深溝
廿五日乙巳 在下へ行
廿六日丙午 御家本田作左衛門殿へ借儀ニ出府
訪女城候 八右衛門こし候
廿七日丁未 時雨 生左衛門江戸へ城候 神事ハ雨ニ成候
廿八日戊申 江戸板倉四郎右衛門殿より大納言様今月末ニ
廿九日己酉 来二三日時分ニ八幡下向候間子ニ帰還ニ城候
へこし申由来候
晦日庚戌 侍倉送こし候
十月大

一日辛亥　江戸へ参着候　同日より雨降

二日壬子　板四郎右ら越候

三日癸丑　四郎右ふるまい候て本田佐渡殿へ越候

四日甲寅　隣斎ふるまい候

五日乙卯　神戸大炊助所ニて連歌候かしハ舟こし候

六日丙辰　大い所へふるまい候て越候ふた代ゐた

七日丁巳　鵜殿佐ふるまい候晩ニ此福松さ内ふるまいにて越候

八日戊午　小栗忠蔵ニ石風呂ニてふるまいにて越候　ゐろさ舟こし候

九日己未　松平与次郎所にてふるまいにてこし候

十日庚申　菱田七九郎所にて連歌候

十一日辛酉

十二日壬戌　晩ニ隣斎ふるまい候

十三日癸亥　鵜めし松与次同弥記殿ふるまい候　京へこし候
飛鷹場候晩ニ牧右馬へこし候

十四日甲子　荒川二郎九郎殿へ連歌ニてこし候金光来山嶋候

十五日乙丑　本田源八へ菱出ニ連歌ニてこし候猿楽衆こし候て柏子候

十六日丙寅 御大所にふる舞にてこし候晩に水野清六殿に
むす子使かけられ候祝言に被成候百之子にさき
さしおき候
十七日丁卯 松平外記殿へふる舞まてこし候大納言様去十
四日に京都より御出被成候由候
十八日戊辰 御運にかぬ川迄こし候江戸隣家より越候飛脚
候
十九日己巳 今日ひらまて牧野右馬允にふる舞候大いそ迄
こし候
廿日庚午 小田原へこし候朝雨降

廿一日辛未 三嶋迄こし候
廿二日壬申 大納言様三嶋へ御着候沼津へ迄御迎に参候
廿三日癸酉 大納言様小田原へ御着候一色と云所に留候
廿四日甲戌 大納言様こい田迄御こし候かまくらへ見物に
こし候
廿五日乙亥 江戸迄こし候 朝雨
廿六日丙子 町へ出正月の物かい候大納言様江戸へ御着候
廿七日丁丑 西郷孫正所に夕めしのふる舞候
廿八日戊寅 晩に国宛ふる舞候　伊豆山木門之御ふ出候来
十日小田原迄

廿九日己卯　朝牧右馬所ニふる舞候、夕本田彦次所ニふる舞候

晦日庚辰　浜城衆たちの衆ふる舞候、其上衆年寄まて衆ら下候、五人くミにもいちや也、松平源七郎とんニ死去候

十一月大

一日辛巳　佐倉迄帰候、吉祥寺新銭候、一打迄帰候

二日壬午　ろつーし迄帰候

三日癸未

四日甲申　忌下へかへり候

五日乙□　忌下へふる舞候

六日□戌　□

七日丁亥　□

八日戊子　□

九日己丑　□

十日庚刀　□

十一日□　□

十二日壬辰

十三日癸巳

十四日甲午

十五日乙未　おふ撥をき
十六日丙申　小りんニ入　殿下へ行　夜雨降
十七日丁酉　朝迄雨降　神角介煩湯治ニいとまこいニ菱喰
一もとせ候
十八日戊戌　平右衛門こし候江戸吉田佐太郎所より去年ゟ
りん銭之儀ニ折紙こし候原田重左衛門江戸
へこし候進上物菱喰三又作日吉佐借銭之こと
まりニ越候　多湖の橋かゝり合力ニ人足つゝ
いし候
十九日己亥

廿日庚子
廿一日辛丑　殿下東表御儀ニ付城候
廿二日壬□　雨降　武州
○以下至廿六日闕佚
廿七日丁未　伊豆山ニ本門にて木請取ニ去五日ニ城候三浦
右衛門八陣にて普請長く成中と申候京へ除
三郎中納言様へ為音信飛脚吏九城候内之証
東菱喰二進上候酒井兵衛大輔青山藤右衛門内
藤八郎右衛門戸田十郎右衛門三益青山七左衛門
門所ゟ二ツ一束ツゝ　樽一二ツ候

廿六日戊申　江戸板倉四郎右衛門さま入輿度八郎三郎女房
衆武州八幡山松平与次郎所へ祝言させ候
て来十三日ニ城ハ　粗せ候ハ
発句　家忠
水鶏は冬葉をたゝぬみより外
廿九日己酉　小見川町火事出来候
晦日庚戌
十二月小
朔日雨雨　宮庄下へ候
朝入雨降　平右衛門江戸より

○至八日闕佚
九日己未　雨降　未刻地震
雲の毛なへ奴朝まても　正佑
十日庚申
十一日辛酉　朝より雨降、
十二日壬戌　終日雨降　半助江戸より帰候、大窪十兵衛所より領分の内に陰陽師を大閤様よりめしよせら
れ候由申あつかひ出候へと申来候
十三日癸亥　朝より雨降

十四日甲子 振舞より掌二對こし候、京都紹巴へ点ニつかハし、独吟一巻こし候、点数廿六句、長二、紹巴より焼物二

十五日乙丑 松平八郎三郎女房衆八幡山松平与次郎所へこし候、大窪十兵より先度ニ陰陽師あつかい候て侍老人ニて候姓せめしいつしかきに八□

○以下數行闕佚

家忠

□

雪八時分ありやもの帰り候

岳下東堂貝塚衆返る時儀ニて城候、岳下へ来候

廿二日壬申

廿三日癸酉

廿四日甲戌

廿五日乙亥 岳下へ行候

廿六日丙子 江戸へ越年ニかつさ埴谷迄越候

廿七日丁丑 雨降雪 舟橋迄こし候

廿八日戊寅 江戸迄こし候 蔵付大炊助所ニふる舞候

廿九日己卯 城へ歳暮ニ出進上白鳥

□禄三年甲午正月大

□
□　二日ニ出仕成候

○以下數行闕佚

□
□　京礼ニ登城候　殿下ヘ礼ニ登城候　角
所八幡宮之ゝいつゝ神角所府へ音信候
八日丁亥　殿下東照宮ニふる舞候　高倉へ松木まゐりて
七兵番匠誠候
九日戊子　晩より雨降　うちつゝきにやいとう
十日己丑
十一日庚寅　薬師堂本光寺初詣
十二日辛卯　殿下ニふる舞ニ登城候

十三日壬辰　雪ふり　例年之連歌候　佐倉吉祥寺こされ候
発句　正佐
巌も生ふる松も幾年千前の □
梅匂ひくる朝の山 □
十四日癸巳　雨雪ふる　又連歌候　其之いつゝ山着請京ゟへり
候
発句　吉祥寺
千世経んともふくふや松ま前の梅

○以下數行闕佚
□
三浦右衛門八　連歌ニ四拾四句候

発句　家忠

さきひらく梅や花咲木の芝の宿

廿一日庚子　為下東堂附儀ニてこし候、いせの香し孫九郎も越候、三州小笑半四郎所日暮候とてこし候、志ま もめん二たん出候

廿二日辛丑　八幡山より正月之音信ニこし候

廿三日壬寅　江戸御普請来廿七日之於お返候由之申来候、板四郎右より小見川知行へ之儀大方お済候、御意も其分之由申来候

廿四日癸卯　為下へ来候、飯沼松平弥兵衛より さうめんおこし候

候

廿五日甲辰　雨降、小見川吉田佐太郎所へ孫十郎路銀こし候

廿六日乙巳　鍾十五

○至廿九日闕佚

晦日己酉　雨降、自江戸京都御普請人数百斗のつもりニてあて候由申来候

二月大

一日庚戌　雨降、京都御普請ニ付而名よりあいは召等之様へ之由江戸より申来候

二日辛亥 江戸へ板倉迄出候
三日壬子 朝雨降 江戸迄着候
四日癸丑 進上物餘二佐州へ二大竈十兵へくちら 板倉
四郎右衛門所へ被下候ふる餘四郎右へくちらも
遣し候 御普請積合榊原式部所へ被下候処之
御普請壱万石之人数計ものつもりにて自身被
候へ之由候 敷根法かし抱候由候 晩に雨大
嵐明所之ふる餘
五日甲寅 ひるんに入被下之御普請昨日より来年
計も人ものつもりまては伊勢蔵米へ鐘十本 □

○以下至七日闕佚 □
八日丁巳 江戸飛脚被候 □ 日限きまり候江戸より
被下之御普請来十六日之被仰被成候由申来候
九日戊午 至来江戸へつかい遣ス用意之被候
十日己未 雨降 雨間を多胡保科弾正殿より貝吹隊右
御門見仕事之書状ら被候被下之御普請延候由
かいふるせ川候
十一日庚申 ふしぎ之御普請延候とも事なりまては 雨降ニ
之小見川殿より音信に出をこし候

十二日辛酉　大納言様ニ今日十二日ニ御上洛にて江戸より□

□　十六日ニ□

○以下至十八日闕佚

十九日戊辰　小田原迄こし候□　大豆壱俵ぬかられ□

□　宿にてきんめん出候数入雨降

廿日己巳　雨降　豆州三嶋迄こし候

廿一日庚午　駿州清見寺迄こし候昔のやとニ留候宿代百

文

廿二日辛未　嶋田迄こし候宿ニ留候宿代六十文

廿三日壬□　遠州大西風

○以下至三月一日闕佚

二日辛巳　京へこし候大納言様ハよしのへ御成まて雪吹

より右衛門所ニふる舞より右へ宿代百文まんめ

ん女房衆もんめん宿代百文石川日向所へも

こし候御扶持方山まて出候御普請小屋場伏

見まて明日まいり候りん中書所雪之楽新ちへ

三日壬午　伏見へ小屋場請取候御扶持方とり山へとりニ

もこし宿代百文米若衆一束

四日癸未　城候

五日甲申 雨降 捺物る □
○以下至十日闕佚
十一日庚寅
十二日辛卯 石川左□依普請初□咲源左より
触ら不能城以
十三日壬辰 同普請以
十四日癸巳 雨降 大納言様依普請見舞ニ依こし以
十五日甲午 同普請以照取出郡以
十六日乙未 同普請以
十七日丙申 大閤様大坂より伏見へ依成以大納言様も京上
り普請見舞ニ依城以
十八日丁酉 大閤様依普請場□
十九日戊戌 □
○以下至廿三日闕佚
廿四日癸卯 □
廿五日甲辰 大閤様大津□大納言様も京へ依陣以足
助殿□
廿六日乙巳 吟つきニ出家一人能城以 同普請 大名衆屆
つとしふる舞以
廿七日丙午 同普請以石川左衛門大夫所ニ屆つとしふる舞

候、牧右馬ニふるまい候

□ 丁未 同普請候、本田若狭所ニ風呂ふるまい候

廿九日 戊申 同普請候、牧右馬允所ニへつらいふるまい候、夕食

岡部内膳ニ候

四月大

○至三日闕佚

四日 壬子 風呂□ 伎倡ニふれ候

五日 癸丑 普請出来候、小笠原掃部大夫所ニ夕食ニ振舞候

六日 甲寅 浜普請奉行衆振舞候、堅野衆へ能时ふるまいニ而

越候、紹巴昌叱玄何へも礼ニ越候

□ 乙卯 堅野ゟまて迄路候、京迄飛よりあい候

八日 丙辰 大閤様聚楽新所ニ御成候、見物ニ御京こしニ

ツまて御ひらせ候うらぬいかき □ 諸公家

□

○至十五日闕佚

十六日 甲子 □

十七日 乙丑 同普請候、京賀茂源左所へ越候、ともまり候了意

こし候て一打迄路候

十八日 丙寅 伏見へ帰候、同普請候

十九日 丁卯 牧右馬ニふるまい候

廿日戊辰 夜より雨降 同普請候
廿一日己巳 雨降 同普請候
廿二日庚午 同普請候 [ ]
○以下至五月一日闕佚
二日庚辰 同普請 菱預る [ ] 町へ出候 大納言様へ
陣より□□二ツ上候 河新蔵右衛門殿へ一ツ 賀
ゝ作甚十へ一ツ 金阿弥へ一ツ出候
三日辛巳 同普請候 賀茂源左ニ遣候まて ふしニへ帰候
四日壬午 同普請候 高野ひしまこされ候
○以下至十四日闕佚

十五日甲午 同普請候 榊式部振舞候 □□□まて
[十六]
晩普請 主竹所ゟ振舞候
十七日乙未 夜雨降 同普請候 初山より飯沼よりこし候

十八日丙申 朝迄雨降 同普請候
十九日丁酉 雨降 同普請候
廿日戊戌 榊式部石川左衛門太夫名へ振舞候
○以下至六月一日闕佚
二日己酉 同普請候 本田豊後所ニ 振舞振舞候 大閤様ゟ
陣羽織帷子下候

三日庚戌　御普請候、大閤様普請場へ御成候、昨日ら下候
羽折帷子にて魚御目候より　の普請候
四日辛亥　御普請候、大閤様明日五日ニ大納言様へ御成
湯まて御成候、御見舞ニ御座敷出仕候　柳式大
炊付候
五日壬子　□
○以下至十五日闕佚
十六日□亥　御普請結城三州様ニ御見舞まてこし候
十七日甲子　御普請候　夕立
十八日乙丑　御普請候、大閤様大坂へ御帰候　夕立

十九日丙寅　御普請候、大納言様京へ御帰候
廿日丁卯　御普請候、牧右馬所ニ御見舞ニまてこし候　□
廿一日戊辰　御普請候　□
○以下至廿九日闕佚
七　□
一日丁丑　御普　□　御引三条法花寺まて候、連歌京衆也
園福ニてとまり候
二日戊寅　御普請候、伏見ニ帰候、羽松源二所ニ寄合
御見舞晩松丹州所ニ御見舞候
三日己卯　御普請候、大閤様大坂より伏見へ　□

四日庚□ 同普請候 □

○以下至十三日闕佚

十四日戊□ □ 出候て妙志んきん参候 □ 六条一向宗とうろう見物して伏見へ帰候

十五日辛卯 同普請候 夕雨降

十六日壬辰 同普請候 村雨降 普請奉行衆ふる舞候

十七日癸巳 同普請 夕雨降

十八日甲午 同普請候 菱沼織部所振舞 □

○以下至廿八日闕佚

□九日己□ 同普請候 石左ニ振舞候

晦日丙午 同普請候 番風呂ニあかり候て出京候 大納言様各めしよせられ候て御普請衆ニ被下候 百人数半分ハ近江人足まて被成候 りんしの中御意候 大閤様御日 □ ふしミへ帰候

○自八月一日至八日闕佚

九日乙卯 浣堤出来 木崎へ人数城候 京へふろこ城候 燒 主殿右馬也 ふしもと法あこし候 相代取上布十端

十日丙辰 雨降 同普請候

十一日丁□ 同普請候

○以下至廿二日闕佚

廿三日己巳 同普請ニ付又伏見御城よりいそて堤あ
りいて名見ところし付

廿四日庚午 出京ニ付

廿五日辛未 吉木嶋堤又あかりニ付

□壬申 同普請ニ付 普請奉行衆振舞ニ付 雨降

木嶋川ちきた具 □

○以下至九月七日闕佚

同普請ニ付

晩より雨降 同普請ニ付園内まて帰ニ付京まて

八日癸未 同普請ニ付ふミへ帰ニ付

九日甲申 同普請ニ付大納言様へ八大閤様御成ニ付とて今日

ミ出仕やミニ付石た牧右写

□

○以下至廿一日闕佚

普請ニ付加入雨降

廿二日□酉 同普請ニ付御松平伊豆所ニふる舞ニてこしニ付夕

水野為助所ニ振舞まてこしニ付

□戊戌 同普請ニ付御小掃所ニふる舞ニ付

○以下残鈌文字可見者止于左

ミへ帰ニ付巳二つり

同七日ニ出仕候雨中来候

普請ハ大納言様被頼

松奈石右衛門へ振舞候

山崎筋へといこうつら松かりニ越候

振舞まて越候

のといい引ニ越候

大閤様ハ上洛候成ハ大納言様も御上洛候

同普請仕ニ付牧右馬へこし候

東山知恩院一心院へ越候

あさこへ来ハ菩提院へつき候

江戸より使ハ晩ニ中納言様へ出仕候

御本城御うつりニて候

酒井助左吏こし候

明治三十年十一月二十日印刷
同　年十一月廿五日發行

版權所有

東京帝國大學藏版

印刷者
發行書林　吉川半七
東京市京橋區南傳馬町
壹丁目拾貳番地